

『かくれんぼ』（7月22日配信）

こんにちは、戸田です。今回は、かくれんぼの遊び方についてお話しします。

私は、ろう学校の幼稚部で働いています。幼稚部の子どもたちは毎日いろんな遊びをしています。鬼ごっこをしたり、これはどこの子も好きですね。砂場で遊んだり、おままごとをしたり、お店屋さんをしたりとさまざまです。

先生と子どもで一緒に考えたかくれんぼの遊び方があります。ほかのろう学校が同じやり方かどうかわかりませんが、私の勤務するろう学校の遊び方があります。

普通のかくれんぼは、鬼が1人ですね。隠れる人がたくさんいて、見ないようにしながら鬼が数を数えます。数え終わるともういいかい？と大きな声で確認します。隠れている側がまだの時は、まーだだよと返事をします。少し待って鬼がまた確認し、もういいよの声で探し始めるのが一般的な方法ですね。

ろう学校の方法は違います。ろう者にあった方法で行っています。鬼が1人ではなくたくさんいます。開始前に、年長の子が前に出てくることが多いのですが、指示役となります。ほかの子はイスに座り指示を見ます。隠れたい人と確認し挙手させ合計で3人くらいになるように選定します。まだ座っている子たちが鬼なので、鬼がいっぱいいます。始まると3人は隠れに行きます。鬼は目をつむることはしません。教室に鬼がいて、教室の外に3人は逃げて行きます。鬼は談笑しつつ数を数えます。10では隠れきれないので30まで数えます。数がまだわからない子は年上の子や先生と一緒に数えます。30まで数え終わると、隠れ終わったかの確認はなく探し始めます。全員みつけると、また教室に戻ります。また違う子を指名し隠れては見つけの繰り返しです。これが私の働くろう学校幼稚部のかくれんぼの方法です。鬼が多く隠れる子が少ないこの方法はとても良いです。以前、みなさんと同じ方法で鬼が1人、隠れる人が多い方法でやっていました。先生が、鬼に情報を伝え、まだ隠れ終わってないや終わったから探していいなど伝えていました。また、鬼も1人で探していると誰が隠れているか、全員で何人かなどわからなくなってしまうのです。先生が、まだ誰が見つかっていないなど、毎度毎度手助けしないと成立しません。でも今は隠れる人が少ないため、鬼も誰が隠れているのか覚えやすくなりました。先生の手助けもほとんどいらなくなりました。子どもたちだけでかくれんぼが成立し、繰り返し遊べているのです。とても良いと思います。ほかのろう学校の方法も今度聞いて見たいと思います。また、この方法が広まったら良いなあと思います。